

# 4

## 古文の知識を学ぼう1 カレンダーと方角

- ①男もすなる日記といふものを、女もしてみんとて、するなり。
  - ②その年の、しはすの、二十日あまり一日の日の、戌の時に門出す。
  - ③そのよし、いささかにもに書きつく。
  - ④ある人、県の四年、五年はてて、例のことどもみなし終へて、解由などとりて、住む館より出でて、船に乗るべき所へ渡る。
  - ⑤かれこれ、知る知らぬ、送りす。
  - ⑥年ごろよく比べつる人々なん、別れがたく思ひて、日しきりに、とかくしつ、ののしるうちに、夜ふけぬ。
- 『土佐日記』

### 口語訳


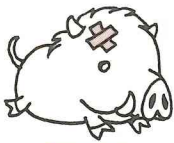
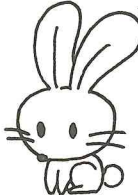




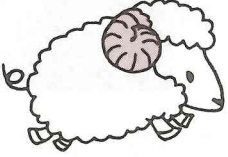
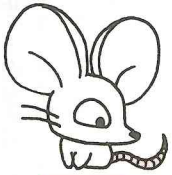
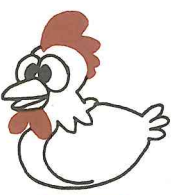

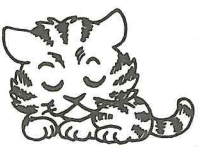
- ①男も書くという日記というものを、女の私も書いてみようと思つて、書くのである。
- ②ある年の、□月の、□日の、□時頃に出発する。
- ③そのいささつを、少しばかり、紙に書きつける。
- ④ある人が、国司としての四、五年の任期が終わり、交代の事務などをみなし終つて、解由状などを受け取つて、住んでいた官舎から出て、船に乗ることになっている場所へ移る。
- ⑤あの人やこの人、知っている人も知らない人も見送りをする。
- ⑥長年の間親しくつき合つて来た人々は別れづらく思つて、一日中あれこれして言い騒ぐうちに、夜がふけた。

### 語句の解説

- (1) その年の…ある年。わざとぼかしている。
- (2) 県の四年、五年…地方の国司としての任期。
- (3) 解由…国司交代の際に、後任の国司が前任の国司の任務に過失のなかったことを証明し、渡す書類。
- (4) ののしる…声高に言い騒ぐこと。現代語の、相手を言いおとしめる意味ではない。

春		
三月	二月	一月
		睦月 むつき
夏		
六月	五月	四月
	皐月	
秋		
九月	八月	七月
ながつき		
冬		
十二月	十一月	十月

2 次の動物にあてはまる漢字を、後の語群の中から選んで、空欄に書き込もう。

		<input type="text"/>	<input type="text"/>
		<input type="text"/>	<input type="text"/>
		<input type="text"/>	<input type="text"/>
		<input type="text"/>	<input type="text"/>
		<input type="text"/>	<input type="text"/>
		<input type="text"/>	<input type="text"/>

- ◆語群
- 子・丑・寅・卯・辰・巳・午・未・申・酉・戌・亥

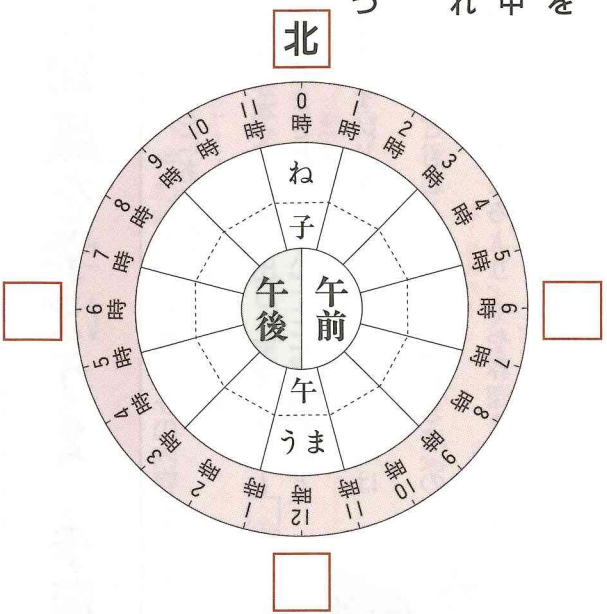
3 下の図は、時刻と方角を表している図だ。図の中に十二支と方角を書き入れよう。

4 右の本文の傍線部はいつ頃を示すか考えよう。

時頃

日

月



紀實となつて、女性なの。『土佐日記』の作者といえば、歌人としても有名な紀實家。でも男なのに「女の私も日記を書くうかひつて思つたです。」なんて書いてるのは、何となくわけが。実は、当時の日記「日記」といへば、政務や行事、儀式などに關する「日々の記録」を「漢字」で記したものを、そのほか、男性が書いていました。でも貴之さんは女性か用いた「平仮名」で自分の胸の思いをわざわざかゝつて文字の魅力にのりつた。平仮名で和歌をまぜながら日記を書いてみよつと思つたのです。そこで、男世界の常識にはあひらず、自由に自分の感情を表現できる平仮名、女性が書いているという体裁の作品にしたのが「土佐日記」なのです。貴之さんは、決して女性じゃなかったんですよ！